

高知県感染症発生動向調査（週報）

2019年 第39週 （9月23日～9月29日）

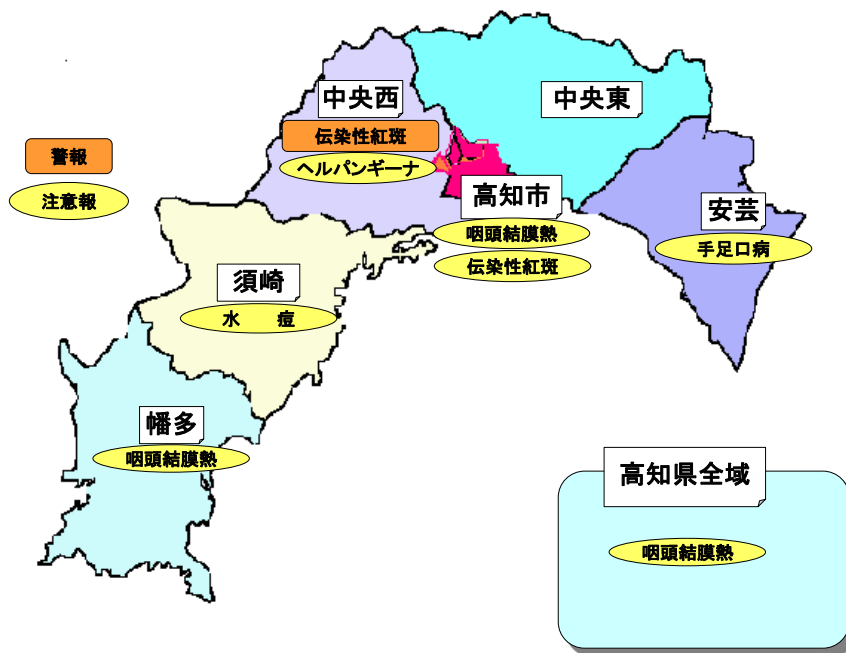
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患5疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↓：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
RSウイルス感染症	→	2.77	中央西で急減、幡多で減少していますが、須崎、安芸で急増しています。
感染性胃腸炎	→	1.70	中央東、安芸で急減、幡多で減少していますが、中央西、須崎で急増しています。
咽頭結膜熱	↗	1.23	中央東、中央西で減少していますが、幡多、高知市で急増、県全域で増加し、県全域、幡多、高知市では注意報値を超えています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	1.03	県全域、高知市で減少しています。
手足口病	↓	1.03	高知市で急減、県全域、幡多で減少していますが、須崎、中央西で急増、中央東で増加し、安芸では注意報値を超えています。

★地域別感染症発生状況



【感染症予防の基本】

咳やくしゃみの飛沫による感染症はたくさんあります。電車や職場、学校など人が集まる場所では「咳エチケット」で感染対策しましょう。

咳エチケット

- (1) 普段から皆が咳エチケットを心がけるとともにくしゃみを他の人に向けて発しないこと。
- (2) 咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。
- (3) 手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと。



★県内で注目すべき感染症（注意点や予防方法）

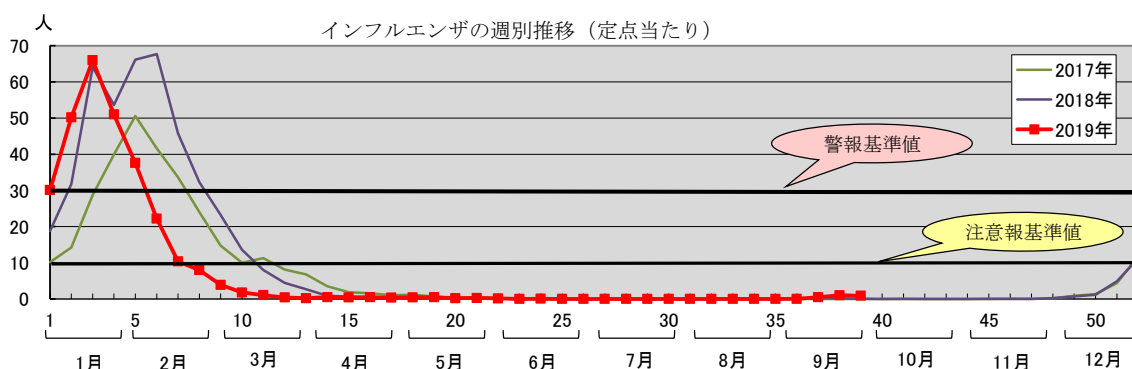
○インフルエンザ気を付けて！

インフルエンザは典型的には突然の発熱で始まり、半日以内に 38℃を超える高熱となり、しばしば頭痛や筋肉痛を伴い、発熱は 3 日程度続きます。潜伏期は 18～72 時間程度です。

インフルエンザ定点医療機関における迅速診断ではインフルエンザ A 型が 38 件、インフルエンザ B 型が 2 件に加えて、A 型・B 型同時検出 1 件、不明 1 件の報告があります。

また、学校等における集団発生の報告でも幡多福祉保健所管内から休校の報告がありました（下表参照）。

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多
休校	第39週	—	—	—	—	—	1
	累計	—	—	—	—	—	1
学年閉鎖	第39週	—	—	—	—	—	—
	累計	—	—	—	—	—	—
学級閉鎖	第39週	—	—	—	—	—	—
	累計	—	—	3	—	—	—



県外ではインフルエンザ警戒が発令中の地域もあり、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が拡大することがあるので、集団生活の場では特に注意が必要です。

<予防対策>

～かからないために～

- ① 外出した後などにはこまめに手洗いしましょう。
- ② 外出時はなるべく人ごみを避けましょう。
- ③ 十分な栄養と休養をとりましょう。
- ④ 10月から予防接種が始まりますので、インフルエンザが流行する前に受けましょう。
（予防接種をご希望の方は事前に医療機関（かかりつけ医等）にお問い合わせ下さい。）

～人にうつさないために～

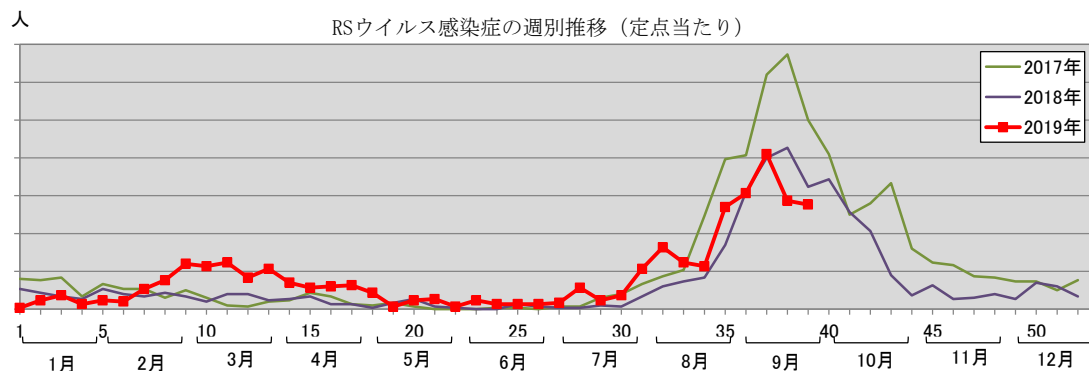
- ① 咳やくしゃみなどが出るときは出来るだけマスクをするなど「咳エチケット」を守りましょう。
- ② インフルエンザが疑われるときには、登校を控えるなど、外出は出来るだけ控えましょう。

【学校感染症】

インフルエンザは学校保健安全法（同法施行規則第 18 条、第 19 条）では、出席停止期間の基準が「発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日（幼児にあっては 3 日）を経過するまで」と規定される学校感染症（第 2 種）です。ただし、この出席停止期間は病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りでないと規定されています。

○RS ウイルス感染症に気を付けて！

この病気は 2 日～1 週間（通常 4～5 日）の潜伏期間の後に、軽い風邪様の症状で発症し、通常 1～2 週間ですぐ軽快しますが、授乳期早期（生後数週間から数ヶ月）に RS ウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。一方、年長児や成人は、感染しても症状が軽いことが多く、気が付かずに感染源となる可能性があります。また、高齢者においても急性のしばしば重症の下気道炎をおこす原因となるため、特に長期療養施設内での集団発生が問題となる場合があります。



＜予防方法＞ 咳エチケットと手洗いが大切です

- ・現在、ワクチンはありません。
- ・咳エチケットと手洗いを心がけましょう。

患者の咳、くしゃみなどによる飛沫感染、感染している人との濃厚接触、ウイルスが付着した物品を触ることによる接触感染により感染するので、風邪と同様にマスクの着用（咳エチケット）と手洗いによる予防が有効です。乳幼児への感染を防ぐため、咳などの症状がある人になるべく接触させないようにし、看護する人も手洗いを十分に行ってください。

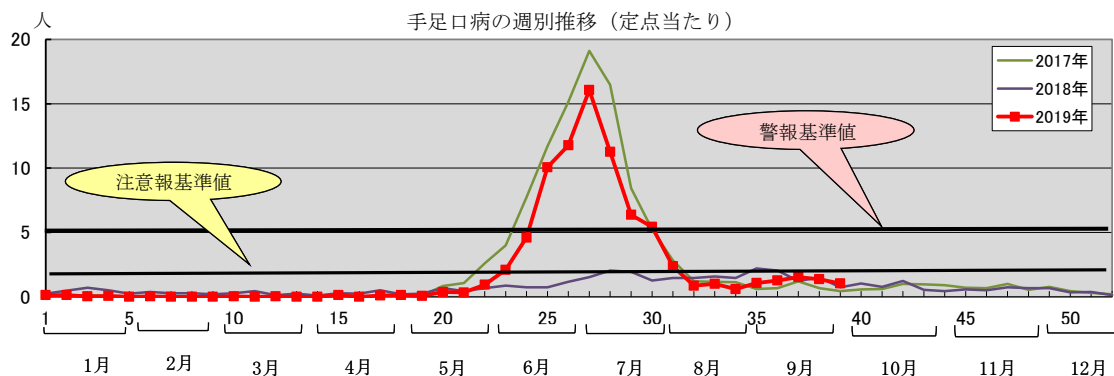
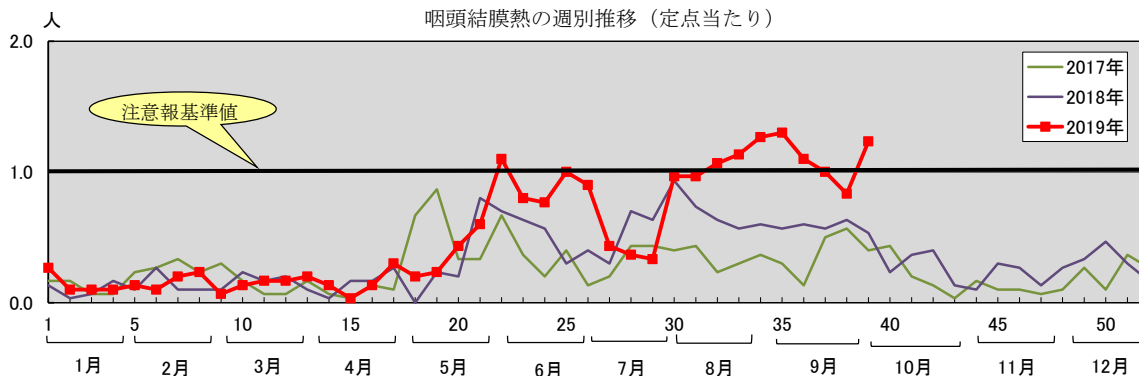
●RSウイルス感染症 Q&A（厚生労働省）

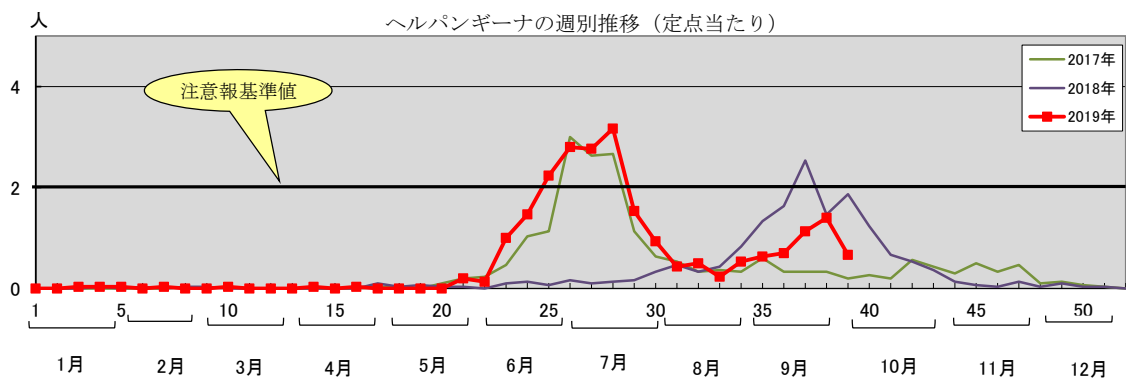
https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

○夏型感染症（咽頭結膜熱・手足口病・ヘルパンギーナ）にまだまだ注意しましょう！

手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱は、主として乳幼児にみられ、手足口病は手、足、口腔内、口唇に小水疱が生じ、ヘルパンギーナは口峡部に特有の小水疱と発熱を主症状とし、咽頭結膜熱は発熱・咽頭炎及び結膜炎を主症状とするウイルス性感染症です。

潜伏期は、手足口病では3～5日程度、ヘルパンギーナでは2～4日程度、咽頭結膜熱は5～7日程度です。





<予防方法> これらの疾病は主に接触感染、飛沫感染、患者の便により感染が拡大します

- ・手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。
- ・タオル・コップ等は別のものを使い、感染者との密接な接触はさけるようにしましょう。
- ・手足口病は治った後も比較的長い期間便の中にウイルスが排泄されますし、感染しても発病しないままウイルスを排泄している場合があると考えられています。しっかりした手洗いが大切です。

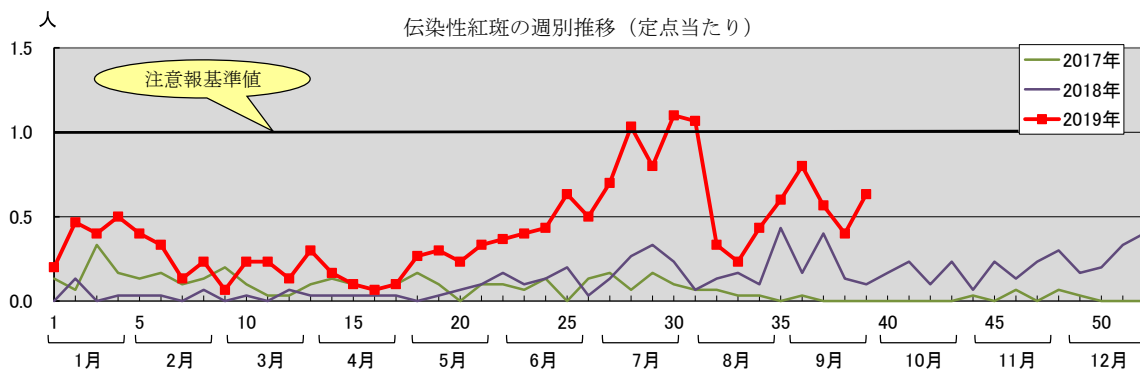
●厚生労働省 「わかりやすい感染症 Q&A」(O157, 麻疹, つつが虫病, 高病原性インフルエンザ, 咽頭結膜熱, 感染性胃腸炎, 手足口病, 伝染性紅斑, 突発性発疹, 風しん, ヘルパンギーナ, 麻しん, 流行性耳下腺炎, インフルエンザ)
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou16/01.html>

○伝染性紅斑 (リンゴ病) 気を付けて！

伝染性紅斑は別称「リンゴ病」と呼ばれ、頬がリンゴのように赤くなります。

7日前後の潜伏期間があり、その後、両頬に鮮明な紅い発疹が現れ、体や手足に網目状の発疹が広がります。通常1週間程度でそれらは消失します。多くの場合、頬に発疹が出現する7~10日前に、微熱や風邪のような症状がみられ、この時期にウイルスの排出が最も多くなります。発疹が現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。

妊娠中(特に妊娠初期)に感染した場合、まれに胎児の異常(胎児水腫)や流産が生じることがあるので注意が必要です。



<予防方法> 手洗いと咳エチケットです

飛沫感染や接触感染なので、手洗い、咳エチケット等の予防対策が有効です。予防接種はありません。ウイルス排泄時期には特徴的な症状を示さない場合もあるので、妊娠中あるいは妊娠の可能性のある女性は、できるだけ発熱などの症状のある患者との接触を避けるよう注意しましょう。

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS）に注意！

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かくなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出てください。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekakaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生環境研究所「ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット」
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
39	無菌性髄膜炎（疑）	39℃,	6	男	幡多	Human herpes virus 6 Human herpes virus 7
39	上気道炎	39℃,上気道炎,発疹,	13	女	高知市	Human herpes virus 7
39	じんま疹様血管炎	38℃,上気道炎,発疹,	15	男	中央東	Human herpes virus 7
39	インフルエンザ	39℃,嘔吐,嘔気,咳嗽,	12	男	高知市	Influenza virus A H1pdm09
39	インフルエンザ	—	12	女	中央東	Influenza virus A H1pdm09
39	インフルエンザ	40℃,	4	女	中央東	Influenza virus A H1pdm09
39	インフルエンザ	38℃,咳嗽,	13	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
39	インフルエンザ	38℃,咳嗽,上気道炎,	1	女	高知市	Influenza virus B/Victoria
39	—	咳嗽,	3	男	中央東	Respiratory syncytial virus A

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
38	—	—	1	女	高知市	Coxsackievirus B2
38	無菌性髄膜炎	40℃,嘔吐,嘔気,腹痛,	3	女	幡多	Echovirus 30
38	—	—	1	女	高知市	Herpes simplex virus 1
38	無菌性髄膜炎	39℃,腹痛,	6	女	幡多	Herpes simplex virus 1
38	気管支喘息、急性気管支炎	39℃,咳嗽,気管支炎,	10ヶ月	男	中央東	Parechovirus 1
38	肺炎	39℃,下気道炎,肺炎,	3	女	中央東	Rhinovirus

<国内の手足口病由来ウイルス検出状況>

国内の手足口病由来のウイルス検出状況は、直近5週間（2019年第32週～第36週）では、Coxsackievirus A6の検出割合が最も多く41%（29件）、次いでCoxsackievirus A16が39%（28件）、Rhinovirusが11%（8件）となっています。

<国内のインフルエンザウイルス検出状況>

国内のインフルエンザウイルス検出状況は、今シーズン（2019年第36週～第38週）では、AH1pdm09の検出割合が最も多く66%（25件）、次いでAH3が21%（8件）、B（ビクトリア系統）が13%（5件）となっています。

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2 類	レジオネラ症	1	7	70 歳代 男	安 芸
5 類	百日咳	1	131	20 歳代 女	
		1		30 歳代 男	
		1		10～14 歳 男	
		1		70 歳代 男	
					中央東

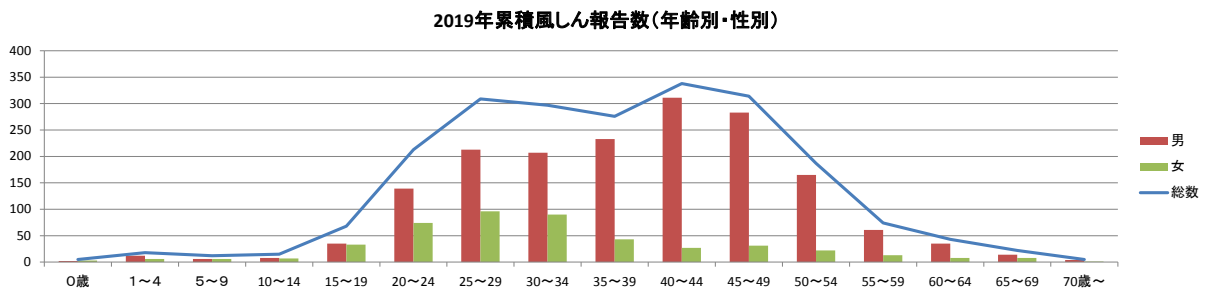
★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	早明浦病院小児科	RSV 感染症 1 例（6 ヶ月；他院へ入院）
	高知大学医学部付属病院小児科	インフルエンザ B 型による脳症疑い 1 例（7 歳男）
高知市	高知医療センター小児科	アデノウイルス 2 例（5 ヶ月男、4 歳女） RSV 感染症 3 例（4 ヶ月女、10 ヶ月女、1 歳男）
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 10 例 （1 歳、2 歳 3 人、3 歳 3 人、4 歳、5 歳、10 歳） 病原性大腸菌 O-25 腸炎 1 例（11 歳） 病原性大腸菌 O-55 腸炎 1 例（9 歳）
	福井小児科・内科・循環器科	RSV 感染症 6 例（4 ヶ月女、1 歳男 3 名、2 歳男女） 伝染性紅斑 2 例（7 歳男、10 歳男） インフルエンザ A 型 1 例 溶連菌感染症 2 例
	細木病院小児科	ノロウイルス 2 例（7 ヶ月女、1 歳男）
中央西	くぼたこどもクリニック	マイコプラズマ感染症 1 例（5 歳男）
	日高クリニック	マイコプラズマ肺炎 1 例（3 歳男）
須 崎	もりはた小児科	滲出性扁桃炎（アデノ）9 例 RSV 感染症 13 例 先週：カンピロバクター腸炎 1 例（4 歳男）
幡 多	渭南病院小児科	アデノウイルス咽頭炎 1 例（5 歳男）
	さたけ小児科	hMPV 2 例（2 歳男、3 歳女） アデノウイルス 2 例（0 歳男、5 歳女）
	幡多けんみん病院小児科	hMPV 6 例（3 ヶ月男、11 ヶ月女、1 歳女、2 歳男女、5 歳女）

★県外で注目すべき感染症

○風しんの届出数が多い状態が継続しています

2019 年第 1 週～38 週の報告数は 2,196 人となっており（2018 年の同時期全国で 825 人）、95%（2,078 人）が成人で、30 歳から 50 歳代の男性を中心に（男性 1,728 人、女性 468 人）に報告数の多い状態が継続しています。



報告数の多い都道府県は、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、大阪府以外に福岡県、愛知県、兵庫県、佐賀県、北海道など首都圏以外の地域からも報告が認められています。

今後、感染が拡大する可能性がありますので、人混みを避けるなどさらなる注意・予防に努めましょう。

【風しんについて】

症 状 : 発熱、発疹、リンパ節の腫れ
感 染 経 路 : 患者の咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染および接触感染でヒトからヒトへ感染
潜 伏 期 間 : 2～3 週間程度
感染性のある期間 : 発疹のでる 7 日前から発疹出現後 7 日くらいの間

【風しんを疑ったら】

発熱や発疹など風しんに特徴的な症状が現れた方は、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。

【予防方法】

- ・風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。
風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1 歳児、小学校入学前 1 年間の幼児の方）
- ・風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠 20 週頃まで（妊娠初期）の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害（先天性風しん症候群）をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りの方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

【風しんの抗体検査について】

県及び高知市は、風しん及び先天性風しん症候群の発生の予防及びまん延防止を図るため、高知県内在住（住所を有する者）の妊娠を希望する女性やその家族などに対して無料の風しん抗体検査を実施しています。抗体検査を実施する医療機関により検査受付は異なりますので、受診を希望する医療機関に事前にお問い合わせください（住所を証明する書類（運転免許証や健康保険被保険者証等）を持参ください）。

無料の風しん抗体検査の実施及び抗体検査の委託を受けた医療機関（高知県健康対策課ホームページ）

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130401/fushinkensa.html>

また、風しんの追加的対策として 2019 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日まで以下の対象者は無料の風しん抗体検査及び定期の予防接種(第 5 期)を実施しています。

2019 年度は、

・1972 年（昭和 47）年 4 月 2 日から 1979 年（昭和 54）年 4 月 1 日生まれの男性について、一括してクーポン券を配布

・1962（昭和 37）年 4 月 2 日から 1972（昭和 47）年 4 月 1 日生まれの男性については、本人がクーポン券を希望する場合において、住所地の市町村が個別に発行

受診可能な医療機関をご確認のうえ、各医療機関にお問い合わせください。厚生労働省「風しんの追加対策について」（風しん抗体検査・風しん第 5 期定期接種受託医療機関）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/index_00001.html

なお、受診時には本人確認（免許証、マイナンバーカードなど）ができる書類をご持参ください。

風しんの追加的対策 Q&A（対象者向け）<https://www.mhlw.go.jp/content/000493833.pdf>

【各医療機関管理者の皆様へ】

（高知県健康対策課 平成 30 年 8 月 17 日付け 30 高健対第 859 号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

- 1) 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- 2) 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生環境研究所で行いますので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

●風しんの追加的対策関係：医療機関・健診機関向け手引き（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000116890_00003.html

●風しん Q&A2018 年 1 月 30 日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

●風しんについて（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/

●衛研ニュース第 20 号（高知県衛生環境研究所）30～50 歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

★デング熱に気を付けて！

県内では過去5年で2014年、2015年と発生届けが報告されています。

2014(平成26)年		2015(平成27)年		2016(平成28)年		2017(平成29)年		2018(平成30年)	
高知県	全国	高知県	全国	高知県	全国	高知県	全国	高知県	全国
2	341	1	293	0	339	0	245	0	198

熱帯や亜熱帯の全域や東南アジア、南アジア、中南米など流行地域へ渡航、滞在される方は、蚊に刺されないよう対策をとっていただくとともに、今後の流行状況等に注意して下さい。

デング熱について

症 状：発熱、頭痛、筋肉痛や発疹が主。まれに重症化し早期に適切な治療が行わなければ死に至ることも

感染経路：蚊を介して感染。発症した人が蚊に刺されると、その蚊にウイルスが移り、その蚊に刺された人に感染

渡航中の注意点

蚊に刺されない様にするのが大切です

- ・肌を露出しない長袖、長ズボンを着用する
- ・素足でのサンダル履きを避ける
- ・白など薄い色のシャツやズボンを選ぶ
- ・露出する部分には虫除けスプレーなどを使用する
- ・蚊取り線香などを使って蚊を近づけない



心配な場合は早めの受診を

- ・海外で発熱などの症状がでたら、出来る限り早く医療機関を受診してください
- ・帰国後に発症した場合や、症状が改善しない場合はお近くの医療機関または検疫所にご相談ください。医療機関を受診する時には、医師に渡航先や渡航期間、渡航先での活動などについて、詳しく伝えてください。

帰国の際に、発熱や心配な症状のある方は検疫所にご相談ください

●蚊媒介感染症（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164483.html>

●厚生労働省検疫所（FORTH）

<https://www.forth.go.jp/index.html>

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生環境研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2019年9月30日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。

★高知県感染症情報
疾病別・地域別報告数

高知県感染症情報(59定点医療機関)

		第39週 令和元年9月23日(月)～令和元年9月29日(日)							高知県衛生環境研究所			
定点名	保健所 疾病名	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(38週)	高知県(39週末累計)	
											H30/12/31～R1/9/29	全国(38週末累計) H30/12/31～R1/9/22
インフルエンザ	2	13	20	5			2	42 (0.88)	50 (1.04)	5,716 (1.16)	13,865 (288.85)	1,447,073 (293.35)
小児科	咽頭結膜熱	1	6	18	2	1	9	37 (1.23)	25 (0.83)	1,262 (0.40)	618 (20.60)	51,868 (16.46)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1	17	4	3	6	31 (1.03)	43 (1.43)	4,534 (1.44)	2,370 (79.00)	247,724 (78.59)
	感染性胃腸炎	1	9	29	3	2	7	51 (1.70)	58 (1.93)	9,166 (2.90)	4,508 (150.27)	612,291 (194.25)
	水痘			3		2	1	6 (0.20)	2 (0.07)	746 (0.24)	287 (9.57)	38,530 (12.22)
	手足口病	5	3	7	4	3	9	31 (1.03)	41 (1.37)	6,851 (2.17)	2,439 (81.30)	347,212 (110.16)
	伝染性紅斑		2	11	6			19 (0.63)	12 (0.40)	1,463 (0.46)	487 (16.23)	82,779 (26.26)
	突発性発疹	1	1	5		2	3	12 (0.40)	8 (0.27)	1,169 (0.37)	395 (13.17)	48,587 (15.41)
	ヘルパンギーナ	2	2	7	8	1		20 (0.67)	42 (1.40)	2,506 (0.79)	681 (22.70)	85,341 (27.08)
	流行性耳下腺炎							()	2 (0.07)	284 (0.09)	36 (1.20)	11,788 (3.74)
	RSウイルス感染症	1	13	41	1	13	14	83 (2.77)	86 (2.87)	9,170 (2.91)	1,022 (34.07)	96,307 (30.55)
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	1 ()	1 (0.33)	272 (0.39)
	流行性角結膜炎	1						1 (0.33)	1 (0.33)	520 (0.75)	51 (17.00)	16,970 (24.45)
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	4 (0.01)	2 (0.25)	348 (0.73)
	無菌性髄膜炎			1				1 (0.13)	()	22 (0.05)	4 (0.50)	544 (1.14)
	マイコプラズマ肺炎			4				4 (0.50)	2 (0.25)	164 (0.34)	104 (13.00)	3,227 (6.74)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()	4 (0.01)	4 (0.50)	71 (0.15)
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)							()	()	1 ()	89 (11.13)	4,622 (9.65)
計 (小児科定点当たり人数)	14 (6.00)	50 (6.48)	163 (13.81)	33 (10.33)	27 (13.50)	51 (10.05)	338 (10.54)			43,583	26,963 (716.96)	3,095,554
前週 (小児科定点当たり人数)	11 (5.00)	62 (8.56)	202 (17.14)	27 (8.06)	17 (8.00)	53 (10.60)		372 (11.68)				

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関)定点当たり人数

		第39週							高知県衛生環境研究所			
定点名	保健所 疾病名	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(38週)	高知県(39週末累計)	
											H30/12/31～R1/9/29	全国(38週末累計) H30/12/31～R1/9/22
インフルエンザ	0.50	1.18	1.25	1.00			0.25	0.88	1.04	1.16	288.85	293.35
小児科	咽頭結膜熱	0.50	0.86	1.64	0.67	0.50	1.80	1.23	0.83	0.40	20.60	16.46
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.14	1.55	1.33	1.50	1.20	1.03	1.43	1.44	79.00	78.59
	感染性胃腸炎	0.50	1.29	2.64	1.00	1.00	1.40	1.70	1.93	2.90	150.27	194.25
	水痘			0.27		1.00	0.20	0.20	0.07	0.24	9.57	12.22
	手足口病	2.50	0.43	0.64	1.33	1.50	1.80	1.03	1.37	2.17	81.30	110.16
	伝染性紅斑		0.29	1.00	2.00			0.63	0.40	0.46	16.23	26.26
	突発性発疹	0.50	0.14	0.45		1.00	0.60	0.40	0.27	0.37	13.17	15.41
	ヘルパンギーナ	1.00	0.29	0.64	2.67	0.50		0.67	1.40	0.79	22.70	27.08
	流行性耳下腺炎								0.07	0.09	1.20	3.74
	RSウイルス感染症	0.50	1.86	3.73	0.33	6.50	2.80	2.77	2.87	2.91	34.07	30.55
眼科	急性出血性結膜炎										0.33	0.39
	流行性角結膜炎	1.00						0.33	0.33	0.75	17.00	24.45
基幹	細菌性髄膜炎									0.01	0.25	0.73
	無菌性髄膜炎			0.20				0.13		0.05	0.50	1.14
	マイコプラズマ肺炎			0.80				0.50	0.25	0.34	13.00	6.74
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.01	0.50	0.15
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)										11.13	9.65
計 (小児科定点当たり人数)	6.00	6.48	13.81	10.33	13.50	10.05	10.54				716.96	
前週 (小児科定点当たり人数)	5.00	8.56	17.14	8.06	8.00	10.60		11.68				

病別年次報告数推移グラフ(インフルエンザ定点・小児科定点・眼科定点)

高知県感染症情報 疾病別年次報告数推移(2019年 第39週)

